

楮の繊維が紡ぐ

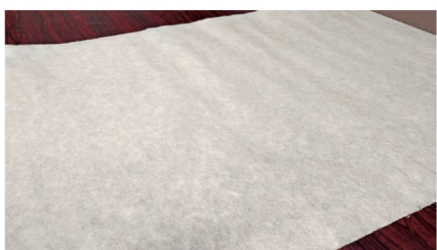
しなやかな和紙の美しさ

紙漉きは農作業が落ち着く時期の仕事として冬から春にかけて行われていました。初めに行うのが原料となる紙素（しそ）づくり。楮を蒸して熱いうちに皮を剥き、不要な皮を削いで洗ひ、専用の包丁で外樹皮（黒皮）と内樹皮（緑皮）に掻き削った後、白い皮だけを残して乾燥させます。「楮蒸・楮たくり」と呼ばれるこの工程が紙質を左右させるため、1ヵ月ほど時間をかけて丁寧にやっていきます。仕上げた皮は再び煮て柔らかくし、アクやチリを取り除いた楮を叩いたり、ビーターという専門の機械を使って繊維をほぐします「楮煮・チリ取り・楮たたき」。上質で強い和紙には、手間暇かけた紙素づくりが重要なのです。



一漉一心。匠の技が光る一枚

一枚の紙を作り出すのは漉き舟（すきぶね）での手仕事。漉き船とは、原料となる楮の繊維を水に溶かし、「ねり（トロアオイ）」を混ぜ合わせていく槽のこと。この中でゆつくりと揺らしながら繊維を均一に広げたら「簾桁（すけた）」という道具を巧みに使い、丁寧に紙を漉く。経験から生まれた繊細なリズムと絶妙なタイミングが、均一で美しい和紙の仕上がりを決めていきます。



紙漉きと作品づくりで 和の時間を楽しむ



加茂紙漉場では紙漉き体験や加茂紙を使ったワークショップを開催しています。
*インスタグラムで開催情報発信中

漉いたばかりの紙は、まだたっぷりと水分を含んでいるので、水の抜き（脱水）が必要。繊維が崩れないように余分な力をかけず紙床に1枚1枚丁寧に重ね、重ねた紙の層から、水をしっかりと押し出していきます。水抜きは、和紙の美しさと強さを生み出す土台づくりともいわれます。

加茂紙は1年で限られた枚数の生産量でとても貴重な品ですが、加茂紙漉場で購入することができます。



加茂紙切り絵

加茂紙漉場

加茂市上町1-22 電話：52-4184
営業時間：平日のみ9時～16時
(12時～13時除く)